

1

次の取引の仕訳を示しなさい。ただし、商品に関する勘定は3分法によること。

- 宮城商店に売価 ¥3,750,000 の商品を30回の均等分割払いの契約で販売していたが、本日、第10回目の割賦金を現金で受け取った。ただし、収益の計上は回収基準により、割賦売掛金・割賦販売上の対照勘定を用いて処理している。
- かねて、商品代金として栃木商店に裏書譲渡していた茨城商店振り出しの約束手形 ¥700,000 が期日に決済された。なお、この手形を裏書譲渡したさいに ¥7,000 の保証債務を計上している。
- 秋田鉱業株式会社は ¥540,000,000 で鉱業権を取得した鉱区から、当期に30,000トンの採掘量があったので、生産高比例法を用いて鉱業権を償却した。ただし、この鉱区の推定埋蔵量は1,200,000トンであり、鉱業権の残存価額は零(0)である。
- 売買目的で保有している群馬商事株式会社の社債 額面 ¥10,000,000 (帳簿価額 ¥9,500,000) のうち、額面 ¥6,000,000 を @¥97.50 で売却し、代金は端数利息 ¥24,000 とともに小切手で受け取った。
- 山形商事株式会社は、実質的に支配している北南産業株式会社の財政状態が著しく悪化したので、保有する同社の株式130株(1株の帳簿価額 ¥87,000) を実質価額によって評価替えた。なお、北南産業株式会社の資産総額は ¥26,300,000 負債総額は ¥18,900,000 で、発行済株式数は200株(時価の把握がきわめて困難な株式)である。
- 埼玉商事株式会社は、次の条件で発行した社債のうち、額面 ¥35,000,000 を発行後5年目の初頭に @¥99.70 で買入償還し、減償用の定期預金から支払った。ただし、社債は償却原価法(定額法)によって評価している。

発行条件	額面総額	¥70,000,000	払込金額	@¥98.40
	償還期限	5年	利率	年1.8%
- 千葉商店に対する買掛金を期日前に支払ったときに ¥16,000 の割引を受けたが、誤って、仕入値引を受けたように処理していたので、本日、これを訂正した。

2

次の各問いに答えなさい。

- 同種の企業である南北物産株式会社と東西物産株式会社の下記の資料と損益計算書によって、
 - 南北物産株式会社の次の金額を求めなさい。
 - 経常利益
 - 当期商品仕入高
 - 東西物産株式会社の次の金額を求めなさい。
 - 営業利益
 - 自己資本
 - 次の各文の のなかに適当な比率を記入しなさい。また、{ } のなかから、いずれか適当な語を選び、その番号を記入しなさい。なお、商品回転率は商品有高の平均と売上原価により求めること。
 - 南北物産株式会社の売上原価率は % である。よって、東西物産株式会社より { 1. 安全性 } が { 3. 高い }
 といえる。
 - 南北物産株式会社の商品回転率は 回である。よって、東西物産株式会社より商品の平均在庫日数が { 5. 長く }
 販売効率が { 7. 良い } { 8. 悪い } といえる。

南北物産株式会社の資料

- 期首商品棚卸高 ¥370,000
- 期末商品棚卸高 ¥390,000
(商品評価損および棚卸減耗費は発生していない)

東西物産株式会社の資料

- 商品回転率 20回
- 売上原価率 75%
- 売上高純利益率 9% (当期純利益による)
- 自己資本利益率 4% (当期純利益による)

損益計算書	
南北物産株式会社 平成○年4月/日から平成○2年3月31日まで	
I 売上高	()
II 売上原価	3,800,000
()	950,000
III 販売費および一般管理費	617,500
()	()
IV 営業外収益	168,500
V 営業外費用	()
()	()
VI 特別利益	220,500
VII 特別損失	58,000
()	()
法人税・住民税および事業税	171,000
当期純利益	256,500

損益計算書	
東西物産株式会社 平成○年4月/日から平成○2年3月31日まで	
I 売上高	4,800,000
II 売上原価	()
()	()
III 販売費および一般管理費	672,000
()	()
IV 営業外収益	169,000
V 営業外費用	121,000
()	()
VI 特別利益	194,000
VII 特別損失	50,000
()	()
法人税・住民税および事業税	288,000
当期純利益	()

- 売価還元原価法を採用している神奈川商店の下記の資料によって、次の金額を求めなさい。

- 期末商品棚卸高(原価)
- 売上高

	原価	売価
i 期首商品棚卸高	¥ 245,000	¥ 350,000
ii 当期純仕入高	2,887,000	4,000,000
iii 期末商品棚卸高	<input type="text"/>	425,000

- 福島商事株式会社は平成○年4月/日に郡山商會を取得した。よって、下記の資料と貸借対照表から次の比率および金額を求めなさい。

- 郡山商會の流動比率
- のれんの代価

- 資料
- 郡山商會の資産と負債の時価は帳簿価額に等しい。
 - 収益還元価値を求め、取得対価とする。
 - 郡山商會の年平均利益額 ¥192,000
 - 同種企業の平均利益率 6%

貸借対照表	
郡山商會 平成○年4月/日	
受取手形	900,000
売掛金	2,600,000
商品	1,400,000
備品	1,850,000
	6,750,000
買掛金	2,100,000
未払金	700,000
長期借入金	1,000,000
資本金	2,950,000
	6,750,000

3

次の各文の [] のなかに、下記の語群のなかから、もっとも適当なものを選び、その番号を記入しなさい。

- a. 企業会計では、財務諸表によって、利害関係者に必要な会計事実をわかりやすく表示し、企業の状況に関する判断を誤らせないようにしなければならない。これを [ア] の原則といい、勘定の分類や配列に一定の基準を設けたり、重要な会計方針を [イ] することなどがこの原則の適用例である。
- b. 商品の取得原価は、販売によって [ウ] として当期の費用となる部分と、期末商品棚卸高として次期に繰り越され、次期以降の費用となる部分とに分けられる。これは [エ] の原則によるものである。
- c. 企業がグループ化している場合、企業グループを単一の組織体とみなし、その企業グループの財政状態および経営成績を総合的に報告するために [オ] が作成される。これは、グループ内で他の企業を支配している [カ] によって作成される。

- | | | | | |
|-----------|---------|-----------|---------|---------|
| 1. 連結財務諸表 | 2. 転記 | 3. 明りょう性 | 4. 発送費 | 5. 売上高 |
| 6. 単一性 | 7. 費用配分 | 8. 個別財務諸表 | 9. 発生主義 | 10. 注記 |
| 11. 売上原価 | 12. 子会社 | 13. 実現主義 | 14. 親会社 | 15. 継続性 |

4

北海道物産株式会社の総勘定元帳勘定残高と付記事項および決算整理事項によって、報告式の貸借対照表を完成しなさい。ただし、i 会社計算規則によること。

ii 会計期間は平成〇/年〇月/日から平成〇2年〇月〇/日までとする。

元帳勘定残高

現金	¥ 925,000	当座預金	¥ 2,400,000	受取手形	¥ 3,200,000
売掛金	3,870,000	貸倒引当金	42,000	有価証券	2,650,000
繰越商品	4,940,000	仮払金	3,500,000	備品	2,800,000
備品減価償却累計額	700,000	土地	11,200,000	投資有価証券	1,950,000
支払手形	3,780,000	買掛金	3,950,000	前受金	800,000
長期借入金	2,500,000	退職給付引当金	1,710,000	資本金	14,000,000
資本準備金	900,000	利益準備金	490,000	新築積立金	1,370,000
別途積立金	380,000	繰越利益剰余金	254,000	売上	71,493,000
有価証券利息	40,000	仕入	54,250,000	給料	6,420,000
発送費	743,000	広告料	895,000	支払家賃	1,860,000
保険料	405,000	租税公課	220,000	雑費	146,000
支払利息	35,000				

付記事項

① 〇月〇/日現在の当座勘定残高証明書の金額は ¥2,770,000 であり、その不一致の原因を調査したところ、次の資料を得た。

(ア) かねて買掛金支払いのために振り出していた小切手 ¥200,000 が銀行でまだ支払われていなかった。

(イ) 得意先から売掛金 ¥170,000 が当座預金口座に振り込まれていたが、未記帳であった。

② 仮払金 ¥3,500,000 の内訳は、次のとおりであった。

(ア) 来年度完成予定の本社事務所に対する建設代金の一部 ¥2,600,000

(イ) 法人税・住民税および事業税の中間納付額 ¥ 900,000

決算整理事項

- a. 期末商品棚卸高 帳簿棚卸数量 920個 原 価 @¥5,100
実地棚卸数量 900ヶ 正味売却価額 〃 ¥5,000
- b. 貸倒引当金 受取手形と売掛金の期末残高に対し、それぞれ/%とする。ただし、差額を計上する方法によること。
- c. 有価証券評価高 有価証券は、売買目的で保有する次の株式であり、時価によって評価する。
青森商事株式会社 40株 帳簿価額 @¥45,000 時 価 @¥42,000
岩手産業株式会社 25ヶ 帳簿価額 〃 ¥34,000 時 価 〃 ¥36,000
- d. 備品減価償却高 定率法により、毎期の償却率を25%とする。
- e. 投資有価証券評価高 投資有価証券は、満期保有目的の社債であり、償却原価法(定額法)によって ¥1,960,000 に評価する。
- f. 保険料前払高 保険料のうち〇か月分 ¥81,000 を次期に繰り延べる。
- g. 利息未払高 長期借入金に対する利息は、毎年〇月末と10月末に、経過した〇か月分として ¥30,000 を支払うことになっており、未払高を計上する。
- h. 退職給付引当金繰入額 ¥ 460,000
- i. 法人税・住民税および事業税額 ¥2,030,000

1

	借 方	貸 方
a		
b		
c		
d		
e		
f		
g		

2 (1)

①

a	経常利益 円	b	当期商品仕入高 円
---	--------	---	-----------

②

a	営業利益 円	b	自己資本 円
---	--------	---	--------

③

a			b		
ア	イ	ウ	エ	オ	カ
%			回		

(2)

a	期末商品棚卸高(原価) 円	b	売上高 円
---	---------------	---	-------

(3)

a	郡山商会の流動比率 %	b	のれんの代価 円
---	-------------	---	----------

試験場校	受験番号

会計の1得点

3

a		b		c	
ア	イ	ウ	エ	オ	カ

4

貸借対照表

平成〇2年3月31日

資産の部

北海道物産株式会社

I 流動資産

1. 現金預金		()
2. 受取手形	()	
()	()
3. ()	()
()	()
4. ()	()
5. ()	()
6. ()	()

流動資産合計

()

II 固定資産

(1) 有形固定資産

1. ()	()
()	()
2. ()	()
3. ()	()

有形固定資産合計

()

(2) 投資その他の資産

1. ()	()
()	()

投資その他の資産合計

()

固定資産合計

()

資産合計

()

負債の部

I 流動負債

1. 支払手形	()	
2. 買掛金	()	
3. ()	()
4. ()	()
5. ()	()

流動負債合計

()

II 固定負債

1. ()	()
2. ()	()

固定負債合計

()

負債合計

()

純資産の部

株主資本

I 資本金

()

II 資本剰余金

(1) ()

()

資本剰余金合計

()

III 利益剰余金

(1) ()

()

(2) その他利益剰余金

1. 新築積立金 ()

2. 別途積立金 ()

3. ()

(うち当期純利益)

利益剰余金合計

()

純資産合計

()

負債および純資産合計

()

試験場校	受験番号

会計の2得点

総得点

1

	借 方	貸 方
a	現金 125,000	(割賦)売上 125,000
	割賦仮売上 125,000	割賦売掛金 125,000
b	保証債務 7,000	保証債務取崩益 7,000
c	鉱業権償却 13,500,000	鉱業権 13,500,000
d	現金 5,874,000	(売買目的)有価証券 5,700,000
		有価証券売却益 150,000
		有価証券利息 24,000
e	子会社株式評価損 6,500,000	子会社株式 6,500,000
f	社債 34,888,000	減債用定期預金 34,895,000
	社債償還損 7,000	
g	仕入 16,000	仕入割引 16,000

2 (1)

①

a	経常利益 $\cancel{\text{¥}}$	265,000	b	当期商品仕入高 $\cancel{\text{¥}}$	3,820,000
---	--------------------------	---------	---	-----------------------------	-----------

②

a	営業利益 $\cancel{\text{¥}}$	528,000	b	自己資本 $\cancel{\text{¥}}$	10,800,000
---	--------------------------	---------	---	--------------------------	------------

③

a			b		
ア	イ	ウ	エ	オ	カ
80 %	2	4	10 回	5	8

(2)

a	期末商品棚卸高 (原価) $\cancel{\text{¥}}$	306,000	b	売上高 $\cancel{\text{¥}}$	3,925,000
---	----------------------------------	---------	---	-------------------------	-----------

(3)

a	郡山商会の流動比率	175 %	b	のれんの代価 $\cancel{\text{¥}}$	250,000
---	-----------	-------	---	----------------------------	---------

3

a		b		c	
ア	イ	ウ	エ	オ	カ
3	10	11	7	1	14

4

貸借対照表

平成〇〇年〇月〇日

資産の部

北海道物産株式会社

I 流動資産

1. 現金預金		(3,495,000)	
2. 受取手形	(3,200,000)		
(貸倒引当金)	(32,000)		(3,168,000)
3. (売掛金)	(3,700,000)		
(貸倒引当金)	(37,000)		(3,663,000)
4. (有価証券)			(2,580,000)
5. (商品)			(4,500,000)
6. (前払費用)			(81,000)
流動資産合計			(17,487,000)

II 固定資産

(1) 有形固定資産

1. (備品)	(2,800,000)		
(減価償却累計額)	(1,225,000)		(1,575,000)
2. (土地)			(11,200,000)
3. (建設仮勘定)			(2,600,000)
有形固定資産合計			(15,375,000)

(2) 投資その他の資産

1. (投資有価証券)		(1,960,000)	
投資その他の資産合計		(1,960,000)	
固定資産合計			(17,335,000)
資産合計			(34,822,000)

負債の部

I 流動負債

1. 支払手形		(3,780,000)	
2. 買掛金		(3,950,000)	
3. (前受金)		(800,000)	
4. (未払法人税等)		(1,130,000)	
5. (未払費用)		(25,000)	
流動負債合計			(9,685,000)

II 固定負債

1. (長期借入金)		(2,500,000)	
2. (退職給付引当金)		(2,170,000)	
固定負債合計			(4,670,000)
負債合計			(14,355,000)

純資産の部

株主資本

I 資本金 (14,000,000)

II 資本剰余金

(1) (資本準備金)	(900,000)		
資本剰余金合計			(900,000)

III 利益剰余金

(1) (利益準備金)	(490,000)		
-------------	-------------	--	--

(2) その他利益剰余金

1. 新築積立金	(1,370,000)		
2. 別途積立金	(380,000)		
3. (繰越利益剰余金)	(3,327,000)		

(うち当期純利益 3,073,000)

利益剰余金合計 (5,567,000)

純資産合計 (20,467,000)

負債および純資産合計 (34,822,000)